トラック運転手 苦悩の日々

首都圏走行で〝過剰警戒〟

新型コロナウイルスの感染が全国的に広まる中、物流を守るために各地を走行するトラック運転手に対する過剰な警戒が県内でもみられ、ドライバーが精神的に追い詰められている。東京を含めた感染拡大地域などが営業エリアに入ることから、同居する子どもが登校自粛を求められるケースもあり、「なぜ家族も苦しい思いをするのか」とやり場のない思いを訴える。

新型コロナ―県内

県トラック協会が今月中旬、会員企業約400社に新型コロナの影響を尋ねる中で、運転手の苦境が明らかになった。

子どもを持つ運転手の間では、各学校で行われている安全対策に戸惑いが広がった。県教育委員会の要請では、入学式などの登校日から2週間以内に東京などの感染拡大地域から県内に戻ってきた場合、濃厚接触となった児童生徒が出席停止となる場合があるとされたからだ。

ある運転手は子どもに「学校が始まってもお父さんが運転手なので自宅待機になるかもしれない」といわれた。関東方面を訪れたため、入学式への出席自粛を求められた事例もあった。「同居もしていないのに、叔父が運転手との理由で登校を自粛させられた」との理不尽な対応も。学校関係以外でも、同居家族がデイサービスの利用を断られるケースもあったという。

子ども登校自粛に ◇ 福祉利用断られ

家族に迷惑をかけまいと「首都圏での仕事を終えた後は自宅に戻らず、ホテルなどの宿泊施設を探すようにしている」という運転手もいるという。置賜地方の運輸業者は取材に対し、「（人との接触を避けるため）朝、昼、晩の食事は弁当を買って車内で食べている社員もいる」と現場の負担を説明する。

「今の仕事を辞めるか、家族と別居しないと解決しないのか」。ドライバーが漏らした悲痛な声だ。

緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大された中、県トラック協会は「ドライバーは医薬品や日用品を運び、国民生活を守るために命懸けで働いている。本人や家族がつらい目に遭うことは決してあってはならない」と、業界への理解を訴えた。

（本紙取材班）